

【高等学校用】

令和2年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀東高等学校	
1 前年度 評価結果の概要	「心の教育」「志を高める教育」「地域社会等との連携」「開かれた学校づくり」では、「概ね達成できた」という達成度であった。また、「学力向上」の「進路希望の実現」は、達成度が「やや不十分」であったが、成果も多く見られた。今年度に向けて改善が必要な部分や、新たに取組まねばならない課題等も精査し、今年度に生かしていく。 「健康・体づくり」「いじめ問題への対応」では、「やや不十分である」という達成度であった。前年度の反省を生かし、今年度の取組に生かす必要がある。	
2 学校教育目標	校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、生きて働く知識・技能の習得や未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力や人間性等の涵養を通して、未知の創りに求められる資質・能力の育成を図る。	
3 本年度の重点目標	「生徒と教職員が元気で明るい学校づくり」を目指して！ ・「自分と他人を愛する」心の育成 ・「自ら考え、行動する」姿勢の育成 ・「夢の実現のためにベストを尽くす」姿勢の育成 ・「失敗を恐れずチャレンジする」姿勢の育成 ・「教師と生徒が業務改善に心がけ、綺麗で安心な学校をみんなで作る」 ・「保護者、地域社会との連携をとる」 ・「教職員の研修強化、ICT利活用教育の推進をする」	

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			主な担当者	
(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	◎キャリア教育の充実および進路希望の実現 (夢の実現のためにベストを尽くす姿勢の育成)	◎進路希望者それぞれの第一志望合格を目指す。国立大学合格者5名以上、難関私立大学合格者15名以上を目指す。 ◎就職希望者全員の希望職種への就職を目指す。	・各学年、時期に応じた研修、訪問、体験活動を計画的に実施し、自己理解・意思伝達力を身につけ、学ぶこと・働くことの意義や目的を理解させる。 ・自己の活動記録を残し、振り返りの中で自己の成長を確認できるようにする。	B	・大学訪問、説明会等を2学期以降に実施することができた。 ・国立大学1名、難関私立大学7名の合格者。 就職希望者14名は全員内定をいただいた。 ・特別活動の時間等を利用して、活動の記録を残していく中で、振り返りをきちんと行うことができた。	B	・大学訪問等ができた点はよかった。 ・学力向上への対策は継続的に進められている。	
	○教職員の研修強化、ICT利活用教育の推進	○1,2学期にそれぞれ各教科で最低1回ずつ授業公開を実施する。 ○全職員が研修を通してICT機器が活用できるスキルを身に付ける。	・教職員が互いに授業を参観、意見交換を行い、指導力を向上する。 ・校内外の研修機会を積極的に進め、情報提供と実施に努める。	B	・1,2学期の授業公開は概ね実施することができた。 ・ICT利活用に関する研修は、概ね実施することができた。オンライン授業の実施について現実的な準備を進めている。	B	・体校等への対応にもつながると考えられるので、オンラインでの授業の実現に向けて準備を進めてほしい。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎80%以上の生徒が、「相互尊重」の意識を感じられるよう、時期に応じて講話、指導を行う。	・「さがを誇りに思う講演会」「情報モラル講演会」等を実施し、豊かな心を醸成する。	A	・「折に融れて「相互尊重」の意識を醸成するための講話や指導等を実施することができた。	A	・今後とも継続してほしい。	
	◎「失敗を恐れずチャレンジする」姿勢の育成	◎80%以上の生徒が「自己肯定感、自己有用感」を感じられるように、全ての教育活動の中で、生徒の自主性を重んじ、適切な指導・声かけを行う。	・「自分と他人を愛する心の育成」し、「相互尊重」の意識を高めるための「いいねカード」の活用と、職員の肯定的指導を心がける雰囲気づくりに努める。	A	・「いいねカード」の活用することができた。 ・「自己肯定感、自己有用感」が感じられる指導を継続的に行うことができた。	A	・「いいねカード」の活用など、昨年度の評価よりA評価が増えているのは、意欲の向上につながっており、大変良いことである。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	◎組織的な対応によって、いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化、再発防止に努める。	・「ホームルームや生徒会活動、教科指導等を通じて、好ましい人間関係等、いじめ問題についての適切な指導を行う。 ・速やかないじめ・体罰等対策委員会を招集して対応を協議、実行する。	B	・被害の最小化と長期化を防ぐ意識を強く持ち、具体的対策を適宜に応じて行った。 ・組織的な対応の更なる強化が必要である。	B	・「自己肯定感、自己有用感」を感じられるよう継続的指導をしてほしい。	
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○清掃活動等を通じて学校生活に適した環境作りを推進する。 ○校内の危険箇所を毎月点検し、整備する。	・毎朝の登校指導を行う。 ・昨年度の交通事故データを元に、事故減少のための注意喚起を徹底強く行う。 ・関係機関等からの外部講師による講演の実施する。 ・危険箇所の整備・校内美化に努める。	A	・毎朝の登校指導や「スクアードストレイト」の実施によって、安全への意識付けを行ったが、交通事故0を達成することができなかった。 ・清掃時間の変更等を行い、環境美化への意識を高めることはできた。 ・安全点検を適宜実施することができ、危険箇所の整備につなげることができた。	B	・登下校時の自転車の指導を粘り強く行ってほしい。特に右側通行0をお願いしたい。	
	○部活動の活性化の推進	◎部活動の入部率を80%以上にする。 ◎部活動単位でのボランティア活動等を積極的に行う。	・部活動紹介や体験入部の内容をより豊かにすることで入部を促す。 ・ボランティア活動の案内や参加を積極的に促す。	B	・部活動加入率は約73%であった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、行事等が実施されず、ボランティア活動を行う機会が減ってしまった。	B	・元気で元気な学校づくりのためにも、部活動への入部促進をお願いしたい。社会人へと成長する過程でもある。社会体育等との緩やかな連携が取れば、問題解決につながるのではないかと。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週1日以上設ける。 ・部活動休業日の確実な設定を行う。 ・業務削減とその意識改革を会議等で呼びかけ、実用化する。	B	・毎週月曜を定時退勤日とした。 ・部活動休業日の設定は適切に行うことができた。一方で、上位大会への参加等が増え、十分に休養ができないという状況もあった。	B	・教職員の休めききちんとするような体制づくりを進めてほしい。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○保護者・地域社会との連携	○地域貢献活動の推進 ○外部への積極的な情報発信・受信による活性化	○地元自治会等との連携・連絡を密にし、地域主催行事への協力等を通して、地域社会における信頼感の醸成に努める。 ○学校の活動を理解してもらうため、情報発信・受信に努める。	・地域行事の生徒への周知と積極的参加への呼びかけ。 ・「学校だより」の定期的発行。「学校パンフレット」の充実。ホームページや訪問による情報発信・受信の促進。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域行事そのものが行われないことが多かった。 ・「学校だより」の定期的発行、ホームページの更新にも注力している。	B	・後援会、部活動振興会とのより密な情報のやり取りをすすめてほしい。	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	「生徒と教職員が元気で明るい学校づくり」を目指して！という重点目標を掲げ、「チーム佐賀東」として組織的、計画的に教育活動に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症等の影響により、様々な活動が制限されることもあったが、「相互尊重」の意識の醸成、「自己肯定感、自己有用感」を育む指導を続けてきた。十全なものではないが、保護者等からの評価をいただいた部分もある。「安全に関する資質・能力の育成」について、交通に関わる面については、特に命にかかわる問題として特に重点的に指導を続けていかなければならない。また、新学習指導要領に適切した学習指導の在り方等についても引き続き取り組みを続けていく必要がある。							